

平成30年度 第4回 吹田市自殺対策推進懇談会
議事録

開催日時	平成31年2月19日（火）午後3時00分開会～午後4時18分閉会
開催場所	吹田市立保健センター 研修室
委員長	小久保委員
出席者	小久保委員、坂元委員、濱野委員、広田委員、前田委員、 田口委員、門田委員、中川委員、鮫島委員（オブザーバー） （以上9名）
欠席者	なし
議題	（1）吹田市自殺対策計画（案）について ア 計画素案に対する意見について イ 計画（案）及び計画の概要版（案）について （2）計画の推進方法について （3）その他
資料	○資料1-1 市民からの提出意見 ○資料1-2 庁内からの提出意見 ○資料1-3 懇談会委員からの提出意見 ○資料2-1 吹田市自殺対策計画（案） ○資料2-2 吹田市自殺対策計画 概要版（案） ○資料3 計画の推進方法（案） ○参考資料1 吹田市自殺対策推進懇談会設置要領 ○参考資料2 吹田市自殺対策推進懇談会名簿 ○参考資料3 吹田市自殺対策推進懇談会の傍聴に関する事務取扱要領

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
事務局	<p>1 開会</p> <p>○開会あいさつ ○懇談会傍聴について（傍聴希望者 0 名） ○資料確認</p> <p>2 案件</p> <p>（1）吹田市自殺対策計画（案）について</p> <p>ア 計画素案に対する意見について</p>
事務局	○資料 1-1、1-2、1-3、2-1 に基づき説明
委員	○資料 1-2 の 4 について、そのような意見があるという現状は危機的ではないか。
事務局	市民から見た時に一般的ではないのではないかという意見である。
委員長	○資料 1-2 の 2 について、確かに公用文ではそうだが、漢字の「供」というのは「お供え」とか大人の付属物的なニュアンスを含んでいるため使用しないよう、子どもの権利委員会などでも平仮名で表記している。吹田市もホームページ等には平仮名で表記されていることを考えると、平仮名で表記するほうが普通ではないか。
委員	民生・児童委員の委員長会において、子ども見守り家庭訪問担当者の説明では、「子ども」の表記について、保健所と連携している市の担当部署では、今後は漢字を使用する方向だという見解を聞いたばかりである。
委員長	言葉というのは認識に反映するところもある。例えば「障がい」に「害する」という意味の漢字を使用すると、まるで障がいを持っている方に問題があるかのように印象付けられる。そのため、マイナスイメージを抱く文字は使わないという動きがあり、「子ども」についても同じではないかと思う。庁内の表記を、今この時代にあえて統一しようとするのは違和感がある。

事務局	<p>子どもの「ども」の表記は、2年程前に審議会で議論になり、その時の市の見解として「供」の漢字には供えるという意味合いは含まないとしていた。一方で付属物だという印象があるのではないかという指摘はあるものの、市としては使用の際にそういった見解を取っていないということで、漢字表記にすることとなった。経緯や取り扱い等を確認するが、市の考え方に沿って表記させていただきたい。</p> <p>イ 計画（案）及び計画の概要版（案）について</p>
事務局	○資料2-1、2-2に基づき説明
委員	○「子ども」が平仮名表記の箇所があるのは間違いか。
事務局	訂正ができていなかった。漢字で仕上げるように考えている。
委員	<p>○概要版で方向性が把握しやすくなっている。あくまでも理想論という話もあるが、これをきちんとやっていくことが自殺予防、対策に繋がっていくのではないかと。素晴らしい計画だと拝見させていただいた。</p> <p>○各事業の棚卸しでは相当数の事業が各課からあがり、それぞれの意識の高さが元々あったのかなという印象だった。日々のケースワークでも、生活困窮の相談窓口や生活保護のネットワークで非常に迅速な対応をされており、個別の裁量の中での手厚い対応の積み上げが、自殺率の低さにも繋がっているのではないかと。今後、保健所と事務局では啓発等に関してリンクしていく取組が出てくるかと思うので、協力させていただければと思っている。</p>
委員	○資料2-2のP.4について、自殺は4つ以上の要因が含まれていると言われていたので、相談支援の際には一つの担当で完結するのではなく、必要に応じて関係機関が連携しあって解決していくことが非常に大事になってくる。これから計画の推進にあたり、連携会議が定期的開催されると思うが、積極的に参加できるような会議の運営を考えていけば良いと改めて思った。
委員	○現状の吹田市の自殺者数は、巻き添えになった方の人数は表記しないのか。例えば一家心中で家族何人かが亡くなった場合等の総人数はカウントできないということか。
事務局	昨日開催した自殺対策研修から気付いたことだが、自殺に関しては明らかにできない部分が多くあり、安易に判断できるものではなく、自殺者数のカウントは非常に難しいようである。また、自殺は社会的問題であり防げるも

	<p>のという前提のもと計画を策定しているが、遺族の立場からするとその考えは非常に厳しいとの見方もあり、自殺と判断することは非常に重たいことである。</p> <p>巻き添えになった方については遺書等があった場合にカウントされており、統計的にそういったデータはない。ただ計画案の「はじめに」に書いてあるように、1人の自殺が5～10人程度に影響する等、数字だけで見えない部分は当然あり、幅広い対策をとれるよう計画を推進していくべきだと考えている。</p>
委員	<p>○資料1-1に書いてあるような意見を聞くと、身につまされる。行政が計画を立案、推進していくことで、どこまで市民が自殺対策について考えてくれるのか、これからの取組が本当に大変な責任のあることであると感じている。</p>
委員	<p>○社会福祉協議会では、「誰もが安心して暮らせる住みよいまちづくり」をスローガンに様々な事業をしているが、自殺予防に繋がるという意識を持ってやっていたわけではなかった。しかし、懇談会に参加して目的は同じだと思った。コミュニティソーシャルワーカー対象のゲートキーパー研修も引き続き受講したいと思う。</p> <p>○資料2-1のP.48、49で「関係団体」と「社会福祉協議会」が併記してあるが、関係団体として社協があがっているのか、関係団体と一緒に社協がやっているのか、わかりづらいと思う。</p>
事務局	<p>表記の誤りであるため、「関係団体」は削除する。</p>
委員	<p>○各薬局では来局した人の表情や服薬状況の確認、気になる人には声かけや傾聴を行っているが、そういった方を医師や保健所など具体的にどこへ繋ぐのが適切か教えていただきたい。</p>
委員	<p>○医者として自殺を考えた時に、アルコール問題は様々な病気や困難などに加わり、自殺への最後のひと押しとして非常に大きな要因となっている。医療的には二次医療圏での課題だと思うが、患者への関わり方を今よりもう少し前進させていく必要があると思う。</p>
委員長	<p>○各事業の棚卸しで、多くの事業について関係性を整理できた過程自体が、非常に意味のあることだったのではないかと。ただ、計画ができてこれからがまさに大切だが、特にこの計画にも書かれている、庁内あるいは庁外の各機関との連携が大切になってくるため、連携をより深めるような取組を推進していただけたらと思う。</p>

	<p>○私は生活困窮者の相談事業等もやっているが、そういう事業を通じて弁護士としても力を発揮できる場でもあるかと思うので、我々の力も是非活用していただければと思う。</p> <p>(2) 計画の推進方法について</p>
事務局	○資料3に基づき説明
委員	○平成31、32年度において重点分野を中心に検討ということだが、評価項目は、年度ごとに提案されるのか。
事務局	中間評価は現在、設定している計画の指標を中心に行うが、具体的な取組内容については、平成31年度、32年度に庁内会議でそれぞれの分野別に検討を並行して進めながら、懇談会で提示したいと考えている。
委員長	○平成32年度に基本施策3、4を検討することだが、リーフレットの作成や配布は平成31年度の取組を踏まえて、平成32年度に入ってから実施するのか。
事務局	計画に記載している取組指標等については、庁内の関係室課と共に順次進めていきたいと考えている。それに加え、平成31年度以降の懇談会では、計画の趣旨を踏まえながらプラスしてできる取組等について検討いただきたい。
委員長	○リーフレットやポスターは、現在、使用できるものはないのか。
事務局	この計画策定を契機に、予算等を確保した上で作成していくことになる。平成31年度も予算等の確保を目指しながら進めていきたい。
委員	○懇談会委員の任期は、平成30年6月1日から平成32年5月31日までとあるが、平成32年度に交代するということか。
事務局	委員については2年間の任期でお願いしているが、関係機関の長から推薦された委員は、改選の際に再度推薦された場合は引き続きお願いすることになる。また、市民委員においては、その時期に公募により選出する。
委員	○吹田市は中核市に移行予定だが、保健所が吹田市の組織となると関係行政機関職員の委員は平成32年度からなくなるのではないか。

事務局	<p>具体的に決まれば、また検討していきたい。</p> <p>(3) その他</p>
事務局	<p>○今後のスケジュールについて、庁内の会議で計画案を諮ったのち、最終案を固める作業に入り、3月下旬に最終的な計画を公表したいと考えている。また、「子ども」の表記等、確認が必要な点については、その前に改めて市の見解等を懇談会委員に示したい。</p> <p>また、今年度の会議はこれが最終となる。来年度からは計画の推進のために引き続き本懇談会を開催する予定である。時期は未定だが、年度内に2回開催予定である。</p> <p>(閉会)</p>